

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171600287		
法人名	有限会社 エスランケア		
事業所名	グループホーム ささゆり 南ホーム		
所在地	岐阜県瑞浪市南小田町3丁目300番地		
自己評価作成日	令和2年9月1日	評価結果市町村受理日	令和2年11月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&g_yosyoOd=2171600287-00&SerViceOd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地
訪問調査日	令和2年10月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年はコロナ感染予防のため、ご家族の面会をお断りしています。代替措置として on line 面会を始めました。とても好評ですが、on line 面会の環境にない方をどうするか検討中です。また、ご家族にLINE で入居者の日々の生活の画像を送っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

代表者は、利用者や家族、地域の方々の笑顔が事業所の評価の基準であると職員に伝えている。職員は、調理の手伝いやモップ掛けなど利用者が出来ることを見守っている。利用者が役割を持ちながら、笑顔で生きがいをもった暮らしが出来るように支援している。SNSを活用し利用者の笑顔や生活の様子を家族に頻りに報告している。オンライン面会を取り入れ、遠方の家族も面会が出来るように取り組んでいる。利用者との信頼関係が築けるように、言葉使いや接し方を工夫している。代表者は、職員の意見を大切に、自主的な取り組みを見守るように心掛けている。オープンな雰囲気作りを心掛け、利用者職員が笑顔で過ごせるように取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員用の更衣室に事業所理念をはっており皆に見えるようにしている。	代表者は、利用者や家族、地域の方々の笑顔が評価の基準であると職員に説明している。職員は、利用者が役割を持って生活できるように見守り、自立支援に繋がるように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩のときに外で作業されている方との交流や、近所に住まわれている知り合いの方からなにげない会話などをしている。	散歩に出掛けて、地域の方と挨拶したり、会話したりしている。地域の秋祭りの時は、子供みこしや獅子舞が事業所に立ち寄り、利用者と交流している。利用者と一緒に買い物に出かけた時、地域の方と会話をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や認知症カフェで近所の方にも参加していただき、認知症の理解をすすめている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は運営推進会議を開催しづらい状況にあり、入居者やサービスの提供情報を少数の参加者に表示するため意見が出にくい	地域の代表者や利用者が参加し、事業所の現況を報告している。テーマに合わせて講義したり、ビデオを上映したりして話し合っている。参加者より、花見の場所や店を紹介され利用者と一緒に参加している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所へ行くたびに担当者に会うようにして現状を伝えるようにしています。	報告書を提出に行った時に市の担当者や情報を交換している。不明なことや利用者の対応について相談することもある。地域包括支援センター主催のボランティア活動に利用者と一緒に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は常に開いており、少し外へ行かれる方もいらっしゃいます。もちろんスタッフが見守りをしています。	代表者より、拘束について具体的な事例を挙げて説明している。職員は、利用者のペースに合わせることを大切にしている。玄関は施錠せず、利用者が自由に外出できるように見守っているが、定期的な委員会や研修の記録を確認できなかった。	職員が、身体拘束の具体的な行為や弊害について正しく理解するためにも、定期的に委員会や研修会を開催すること期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議ごとに虐待について話すようにしています。あと、虐待防止はスタッフの心のケアと思い話しかけるようにしています。		

グループホームささゆり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度を1名の入居者が利用していて、管理者や職員は後見制度の知識は持っている。社会福祉協議会の日常生活自立支援制度を利用している方はいないが、必要な人には活用できる体制にある		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約をするまえに必ず利用規約を説明し、今後どうやって生活していくのか、金額はいくらになるのかを説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来たときに、風通しよく話せるようにして意見をきいたり、提案をしたりしている。	面会時や電話にて利用者の近況を伝え、家族の要望を聞いている。SNSを活用して生活の様子や笑顔の写真を送信している。家族より、面会に来た人を教えて欲しいと要望があり面会者カードを作成した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	食事のことや掃除道具のことなど、ちょっとしたことでも提案してもらっている。意見をいやすいようにコミュニケーションを大切にしている。	代表者は、職員の自主的な取り組みを見守り、意見を言いやすい雰囲気作りに取り組んでいる。職員の意見を大切にして、修理や電球の交換など出来ることはすぐに行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	仕事の流れで一番忙しい時間を話しあい、その時間に人数を増やすような勤務体制にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	初心者の場合だと、研修の時間を長くとるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、他のグループホームと当ホームの管理者とを合わせ情報交換をさせている。そして足りないところを補いサービスの質を向上させている		

グループホームささゆり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	スタッフ一人ひとりに利用者へ挨拶、自己紹介をしてもらい、不安や要望をきくようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の初期段階で家族の要望を聞き入れそれを元にサービスをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「家では四つん這いで移動していた」という利用者に対し、手すりや杖、膝のサポーターの締め直しをしてスタッフの見守りの元、通常歩行を開始した。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフが出勤すると利用者から「お帰り」といわれる関係を築いており、もう一つの家族のような関係を目指しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にも通院支援や必要物資の購入などできることをなるべくやってもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の友人から電話をもらうことがある。	家族の協力を得て、馴染みの店に出掛けている。利用者の思いを家族に伝え、帰宅する方もある。携帯電話の使い方を職員に聞きながら使用している。オンライン面会を行い、遠方の家族と会うことが出来ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格を熟知して席を決定している。面倒見のいい利用者は隣の利用者のお世話をさせていただくこともあります。		

グループホームささゆり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了したらこちらから連絡することはないが、巷であったら経過を聞き相談を受けることはしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	歩けるが車椅子に乗り歩きたくないという利用者がいる。その方に対してトイレなどの移動の時には片道だけ車椅子を使うようにしている。	散歩時や入浴時、夜間帯など利用者の思いや意向を聞いている。職員は、信頼関係を築き、話しやすい雰囲気となるよう心掛けている。困難な場合は、問い方を工夫し、表情やしぐさから把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービスの開始前にケアマネや家族、施設から必ず話を聞くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者によって体力が違うので休んでいただく時間をつくっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	コロナのため会議は行えなくなってしまったが、スタッフの間でよく意見やアイデアを話し合い、反映させている。	計画作成者がモニタリングを行い、職員個々に意見を聞いて計画を作成している。退院後や状態が変化した時は、その都度計画を変更しているが、変更のない場合は家族の意向を確認することができていない。	計画を変更しない場合でも、家族に状況を伝え、家族の意向を確認するように取り組んで欲しい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気付いたことを介護記録に記入したり、申し送り、口頭で即座に報告するようにしている。それを元に話し合いケアを変えている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族から要望があればできるかぎりニーズに応えている。		

グループホームささゆり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	心豊かに楽しく暮らしていく上で「ささエール」活動、中学校や高等学校のボランティア学生の協力を得たり、社会福祉協議会主催の福祉祭りには入居者の作品を展示していたが、現在は実施していない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関に血圧、体温など普段の状態を報告している。それを元に必要な医療を受けられるようにしている。	かかりつけ医の受診は家族が同行している。家族が都合の悪い時は、職員が同行することもある。家族が同行する場合は、書面や介護記録を渡し、受診の結果を家族に確認し、報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	褥瘡の利用者に対し看護師の意見を反映させてケアにあたっている。シーツ、座布団の見直し。幹部の処置の仕方など細かく処置の仕方を相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の薬や病状などの情報は一つのファイルにしておき、医療機関に速やかに提出することができるようになっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ささゆりでは看取りまでやってはいないので、利用者の状態を家族に報告して次の段階への提案をしている。	契約時に利用者と家族に事業所の方針を説明している。早い段階から家族に相談し、意向に添えるように取り組んでいる。看取りの実績はないが、家族の意向によっては看取りは行えるように体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習を定期的に受け、救急車を呼ぶ時に住所や電話番号を間違えないように大きな字で書き張り付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の避難経路、避難訓練はおこなっている。ハザードマップによる水害の確認、避難場所の確保しており職員にも伝えている。	職員から地域住民に呼びかけ、見守られながら夜間を想定した訓練を年2回行っている。地域住民と一緒に消火器を使った初期消火訓練を行っている。保存食や水、おむつなど備蓄している。	

グループホームささゆり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本的に話すときは敬語で、特に傷つきやすい方に対しては言葉のトーンや表情まで気を使うようにしている。	代表者は、排泄の誘導時や状況など大きな声で話さないように伝えている。排泄の失敗時は、利用者の尊厳を傷つけないように心掛けている。職員は、尊敬の念を持って丁寧な言葉使いを心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定しやすいように閉ざされた質問をするようにしており、スタッフにも実践するようによびかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調やその日の気分で体操やレクをやりたくない人もいらっしゃいますので、利用者一人ひとりの希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服の選択は利用者本人の思うようにしている。ラフな格好のときもあるが、一線を越えなければその人らしさだと思う。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき、手でできる簡単な下処理など食事に関しての作業に参加してもらっている。片付けも、最後のお皿拭きをよくやってもらっている。	朴葉寿司や栗きんとんなど利用者と一緒に作っている。利用者は、調理の下準備や片付けを手伝っている。手伝ってもらった時には感謝を伝えている。音楽を流しながら落ち着いた食事が出来る様に取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	寝るときに部屋で水分をとれるよう水筒をおいている。食事量もその人に合わせて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力での口腔ケアが難しいときはスタッフがケアしている。		

グループホームささゆり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人にあったパットを家族に提案している。肌に合わない、自分で上手にパットを着けることができないなどの問題を解決し、自立に向けた支援をおこなっている。	尿意のある方は、なるべくオムツを使用せずにトイレに誘導することを心掛けている。夜間もポータブルトイレは使用せず、トイレに誘導している。排泄のチェック表を活用し、職員間で話し合いながらトイレに誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分で便秘予防するのはもちろんだが、排泄物の状態や頻度を医師と相談してその人に合った医療を受けるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯は決めてしまっているが本人の希望にそって入浴支援している。入浴中はスタッフと利用者の二人きりなので会話を楽しんでいる。	決まった入浴日以外でも希望により入浴することができる。順番や時間など利用者の希望を叶えている。嫌がられる方は、無理強いないで利用者の話を聞き、日を変えるなど工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	パジャマやシーツは定期的に洗うようにしている。夜寝つきが悪い方には夕方散歩へいくようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しい薬が始まった時は、特に症状と変化を確認し医師、看護師に相談、報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ゲームで商品を出すようにしたら今まで参加しなかった利用者も参加するようになった。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩で行ける程度ならいけますが、それを越える本人の希望は叶えられていない。	利用者の要望で、髪を染めたい時や欲しい物がある時は一緒に出掛けている。事業所から家族に声を掛けて、花見や紅葉狩りに家族も一緒に出掛けている。地域包括支援センター主催のウォーキング大会に利用者と一緒に参加している。	

グループホームささゆり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している方もいらっしゃいます。希望があれば買い物に連れていきます。しかし、多額の現金を所持しており、お年玉、お祝いなどとスタッフに渡そうとすることがあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の使い方、手紙を読んであげたり、返信の文章を一緒に考えたりしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには座れる場所を三か所作っており、本人の好きな場所に座れるようにしている。季節感を取り入れるためによく草花を飾るようにしている。	玄関やテーブルに季節の草花を飾り、リビングには利用者と一緒に行った季節の作品を飾っている。職員は、温度や湿度を調整し、冬には日が入るように気を付けている。リビングに面した日当たりの良いテラスに、ソファを置いて自由に座って寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のテーブルを二つに分けて気が合う者同士にしている。もしトラブルがあれば席を変えるなどして対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	レコードを自室に置いて時々聴いてるかたはいます。しかし、多くの方は質素な部屋になってしまっている。	使い慣れた筆筒や調度品、CDデッキを持ち込んでいる。鏡台と化粧品を持ち込んでいる方もいる。家族が持ってきた花やサボテンに水やりしたり、位牌を置き毎日おやつを供える方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者によって肘置きのある椅子を選択している。座位保持が難しかったり、突然の発作のため座位保持が困難な方に使うようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171600287		
法人名	有限会社 エスランケア		
事業所名	グループホーム ささゆり 北ホーム		
所在地	岐阜県瑞浪市南小田町3丁目300番地		
自己評価作成日	令和2年8月14日	評価結果市町村受理日	令和2年11月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&i_gyosvoOd=2171600287-00&SerVi.ceOd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地		
訪問調査日	令和2年10月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	共有スペース入口に「信頼関係は笑顔で築かれ、サービスの質は笑顔で評価される」と運営理念を掲げ、実践している。近隣住民や来訪者に対しても笑顔を絶やさないようにしている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染予防のため、面と向かったの交流はほとんどありませんが、近隣の方が散歩中に迷った入居者を、連れて来てくださったことがあります。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	顔を合わせての地域貢献ができないので、経済的な地域貢献しかしていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は運営推進会議を開催しづらい状況にあり、入居者やサービスの提供情報を少数の参加者に表示するため意見が出にくい		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの後押しで組織されたボランティア団体”オレンジの絆”の活動を通して、認知症の偏見をなくすよう取り組んでいる。月一回、活動準備のための会議がある		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者が入院中身体拘束を受け別人になって戻って来えた。身体拘束の弊害を目の当たりにした我々は、拘束をしてはいけないことを心に焼け付けた。日中玄関やその他の出入り口は開放されて身体拘束をしないケアに取り組んでいる		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ会議や仕事の空き時間に、どのような行為が虐待になるのか又防止に付いても話し合っている。入浴中に入居者の体の傷やあざや日常の表情を常時確認している。虐待行為を見て見ぬ振りをするのも虐待になることは周知している		

グループホームささゆり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度を1名の入居者が利用していて、管理者や職員は後見制度の知識は持っている。社会福祉協議会の日常生活自立支援制度を利用している方はいないが、必要な人には活用できる体制にある		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時入居者と家族に十分な説明をし、理解と納得された上で署名捺印を受けている。入居者や家族からの質問を常時受け付け、信頼関係を持続できるよう努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談箱を設置したり、通話やメールで意見要望を聞くようにして、解決の努力をしている。その情報をスタッフ会議で共有している。入居者の要望は出来るものはその場で実現している		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関するスタッフの意見は、スタッフの都合を優先するものが多いが、入居者とスタッフの都合のバランスを取りながら、運営に反映させている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの希望に応じて、パートタイマーから正規職員に転換する条件を整備し、安心してやりがいを持って働ける職場環境にしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護キャリア段位制度に沿って、スタッフ一人ひとりを評価し、次のステップを示しそこに向かってトレーニングしている。介護福祉士を目指す者に対して、研修会の日当を払い資格を取りやすい環境にしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、他のグループホームと当ホームの管理者とを合わせ情報交換をさせている。そして足りないところを補いサービスの質を向上させている		

グループホームささゆり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人は入居時非常に不安になるので、声掛けなど頻繁にコミュニケーションを取り信頼関係を築いている。他の入居者に気を遣わなくても良い散歩や入浴時にも、会話の中から心配事を聞き洩らさないようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時、アセスメント時、面会時、家族の意見を聞き信頼関係を構築している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様とご家族様の意向をしっかりと把握し、安心してサービスを受けることができるように努めている。グループホームのサービス以外のニーズがある場合、家族と相談の上速やかに実施している。例えば訪問診療を実施している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフは入居者を人生の先輩として尊敬し、料理方法の教をを請うこともあり、家族のような関係を築いて、常に安心して過ごしてもらえるように努力している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院の送迎・介護用品や消耗品の補充など、家族に出来ることは家族がしている。病院の付き添いの際は家族水入らずで外食してから帰ってくる。そして入居者はそれを楽しみにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の生活でよく利用していたスーパーや美容室、馴染みの人と顔をあわせるような場所へ本人の意向を聞きながら出来る限り出向いたが、今年は自粛している		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う合わないの関係を把握し、入居者同士の会話や言動に注意している。気が合わない場合は、席を離しトラブルを避けるようにし、ADLの低い人の隣に自立に近い人の席を置き、入居者同士が支え合えるような環境作りをしている		

グループホームささゆり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後郵便物が届くことがあり、それを持って介護施設や入院先へ面会に行き安心させる。小さな町なのでスーパーなどで家族に出会うことがあり、現状報告を受けることがしばしばある		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症の本人からは思いや意向を聞き出すのは至難の業なので、家族からの情報で類推したり、日々一緒に生活する中で表情や行動を見逃さず思いを汲み取るように努めている。皆に共通してある思いは、「家族に会いたい 家へ帰りたい」		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族と本人から十分にアセスメントを行い、生活歴を把握し入居後もその都度、状況に合わせ継続的に行っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日を通して、表情や言動などで状態の把握に努め、介護記録や連絡ノートを活用しスタッフ間で情報の共有化を図っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族、スタッフ、主治医、訪問歯科医師等の要望・意見を反映し心身の現状に即したケアを実現できる様介護計画を作成しどの程度達成したかモニタリングしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、申し送りノートにより入居者一人ひとりの現時点での情報をスタッフが共有し、その情報に基づいて支援している。介護計画の見直しにもこの情報は活用されている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時対応は、本人や家族の希望をふまえて人道的な立場で対応している。状況や意向が変化した時にも、出来る限りのサービスが行えるよう対応している		

グループホームささゆり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	心豊かに楽しく暮らしていく上で「ささエール」活動、中学校や高等学校のボランティア学生の協力を得たり、社会福祉協議会主催の福祉祭りには入居者の作品を展示していたが、現在は実施していない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院は家族送迎が原則になっているが、家族の都合や緊急の場合事業所で家族の同意を得ながら送迎している。この時介護記録や体重記録表をかかりつけ医に見せることで、診療の補助になっている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職が看護職に入居者の日常の心身の状態や情報、気づきを報告、連絡、相談し適切な受診や看護が受けられるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の緊急入院時にはスタッフが付き添い、家族が到着するまでの間に病院関係者に情報提供し、また早期退院に向けて対応可能な条件を明確にしている。市内総合病院を何度も利用している間に医療相談員とは良好な信頼関係が築けた		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に看取り対応への指針、緊急時(終末期)意向確認などで家族に説明を行いホームの出来ること、出来ないことを説明している。今迄家族から看取りの希望はなく、終末期は家族と相談して医療機関に搬送してきた		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年消防士の指導訓練を実施していたが、今年は様子を見ている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の防災訓練や市の防災課の研修で、避難路、避難方法、保存食の指導を受け、特に夜間を想定した避難訓練には力を入れている。近隣住民とも友好な関係にあるので、災害時には助け合える。スプリンクラーと自動火災報知設備を設置している		

グループホームささゆり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として一人ひとりを尊敬し丁寧な言葉を掛けている。 プライバシー保護については、介護記録に本人以外の個人名を記載する場合、イニシャルであらわすような注意をはらい、他人に知られないように気を配っている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「その人らしさ」を尊重し本人の希望を言い出しやすい環境を作り、自分で決定出来るよう支援している。スタッフの考えを一方向的に勧めず、納得して決定されることに重点を置いている。また、意思表示が出来ない人であっても表情を観察しながら、本人の希望を支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調を見ながら皆でレクレーションを楽しんだり、また居室で一人の時間を過ごす等本人の希望に沿った支援をしている。ベッドで寝てばかりにならないように、声を掛けて居間へ誘い出します		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ほとんどの入居者がささゆりでの調髪を希望されていますので、2ヶ月に1回程度ホーム内で好みの髪型にカットしています。家族との外出時に気に入った衣服や化粧品を購入される方もみえます。外出時の服装は相談しながら一緒に選んでいます		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	意欲と能力に応じて、サンドイッチ・ほう葉ずし・ホットドッグ・お好み焼き等をスタッフと共同で作成し、自分の作ったものは自分で食べる楽しさを味合った。日頃の食事では、入居者は野菜の皮むきや調理の手伝いにおやつ作りも手伝っている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べた量と水分摂取量を介護記録に記入し、不足の方にはおにぎりやおやつで補ったり、水分摂取を勧めたりしている 食後に、食餌の量や硬さ、味加減を聞き反省材料にしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その方の能力に応じてスタッフが声かけをしながら、義歯及び口腔内の清潔を保っています。月に1度訪問歯科衛生士が口腔ケアを実施している		

グループホームささゆり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し定期的に声かけをしてトイレに誘導して、おむつの使用を出来るだけ減らしている 失敗時には他の入居者に悟られないように、小声で対応している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の食事に食物繊維やヨーグルトなどの発酵食品を取り入れ、水分摂取に心がけ便秘予防に努めている。また日課として運動もしている。強度な便秘の場合、医師に相談し指示を仰いでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には、日中午後、隔日週3回の入浴になっているが、体調や希望を考慮に入れている 昼下がりの浴室からは入居者とスタッフの楽しい会話や笑い声が聞こえてくる		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間熟睡の為、日中の活動(レクリエーション・散歩・歌)を活発に実施している。過半数の方は夜間の睡眠に影響の出ない程度の短時間の昼寝をする		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は誤飲・誤嚥・飲み忘れ・落下のないように、口の中へ入り飲み込むまで目視で確認している 症状に変化があれば主治医に相談し、指示を受ける		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	スタッフは入居者一人ひとりの生活歴を把握し、出来そうな役割を見つけ助け合いながら生活している。花の水やり・洗濯物たたみ・台拭き等をしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年はコロナ感染予防のため、散歩と通院以外の外出は自粛している		

グループホームささゆり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる少数の人は、自分で管理され買い物の支払いを行なっている。手持ちのお金がないと不安に感じる方には家族と相談のうえで小額の現金を持っていただくようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している方には、使い方を教えながらいつでも電話が出来る様支援している。ご家族に年賀状を書いて出す支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や玄関の壁には入居者の作った作品がはってあり、あちこちに野の花がいけてあり季節感が感じられる。温度・湿度にも気をつけ、温湿度計を見ながら調節をして居心地良く過ごせるようにしている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前にはソファがあり、思い思いに座ってテレビを見る事ができる。また居間からテラスに出てソファに座り、外の景色を眺めたりうたた寝をしている入居者もいる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具・食器・箸・日用品寝具などを持参し使っている。仏壇を持って来た方はおやつをご主人にお供えされている。ご家族や面会者が居心地良く過ごせるよう換気や消臭、照明の明るさの配慮に努めている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の入居者の『わかる』を把握し、トイレや居室に目印をしている。また、個々の身体状況にあわせ、居室での家具の配置やベッドの高さを検討し安全に生活できる様支援している		